

教科等研究会（小学校音楽部会）

令和元年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「音楽のよさを感じ取り、生き生きと表現できる子どもの育成」
(仮説) 音楽を形づくっている要素に気づき、それらが生み出すよさや面白さなどを感じ取る活動を位置づければ、自分の思いや願いをもって、生き生きと表現できる子どもが育つであろう。

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	研修会	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6/3	17名	乙女小	8/2	飯野小	(講話)	10/11	広安西小	赤星静香 教諭	1/23	甲佐小	西村彩乃 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 本部会の研究テーマの考察

新学習指導要領には、音楽科における「主体的・対話的で深い学び」を実現する際の留意事項として、「他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見出したりするなど」と記されている。これは、今回の改訂の基本的な考え方の一つであり、これまでも大切にされてきたことである。さらに、その文言に続く「思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること」は、現行学習指導要領のポイントである。主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点から授業改善を図ることで、これまで大切に積み重ねられてきた学習や指導方法を継承し、さらに質的に充実させることが重要であると考え。そこで本年も研究の軸は大きく変えずに取り組んだ。

「音楽のよさを感じ取る」とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形作っている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化と関連付けることである。新学習指導要領の中でも、これらを「音楽的な見方・考え方」を働かせることと位置づけ、この見方・考え方を通して、音楽科の資質・能力を育成するものと明記されている。

「思いや願いをもって表現する」とは、思いや意図をもち、それを実現するために必要となる知識や技能を習得して、歌ったり演奏したりするということである。また、主体的に他者と協働する中で自分の考えをより深めたり再構築したりしながら豊かに表現することは、「生き生きと表現する」姿であると考え。音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みをもとにすることにより、音楽のよさや美しさを感じ取り、音楽への思いや願いをもって豊かに表現できる子どもの育成を目指した。

② 研究の実際

ア 夏季研修会

「新学習指導要領における授業づくりのポイント」

講師：熊本大学教育学部 山崎 浩隆 准教授

来年度から全面実施となる新学習指導要領における授業づくりについて、具体的な実践をもとにお話しいただいた。目標の中にある「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる」という文言に注目し、「学校の音楽、校門を出ず」とならないように、どのように授業を組み立てていくかを学んだ。子どもに表現させるために、どのような思いや意図をもたせるのか、どのようにして子どもの生活経験に結びつけるのかなど、深い学びへと導く手立てがわかった。鑑賞学習では、比較をすることや選択肢を示して限定すること、単純な情報への変換を行ったりすることでポイントを絞った鑑賞ができることがわかった。また、技能指導に便利な ICT として、スマートフォンやタブレットで使えるアプリの紹介もあった。

イ 研究授業① 第1学年「どれみとなかよし 『ひのまる』」

指導者 益城町立広安西小学校 赤星 静香 教諭

本題材は、歌や身体表現などを通して、音階の順番を知ったり、「ドレミ」が音の高さを表してい

ることを理解したりすることをねらいとした学習であった。歌の盛り上がるところにシールを貼ることで児童は自分なりの考えを表すことができ、音の高さや歌詞の内容に注目して考える姿があった。

ウ 研究授業② 第1学年「ようすをおんがくで 『おもちゃのへいたい』」

指導者 甲佐町立甲佐小学校 西村 彩乃 教諭

本題材は、楽曲を聴いて想像したことや感じた取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解することをねらった学習であった。おもちゃ箱から飛び出した兵隊の様子を想像し、その理由として聴き取った音楽を形づくっている要素と結び付けて考えることができていた。身体表現では、拍の流れをつかみ行進をしたり、踊ったりしていた。

(2) 成果と課題

(成果)

- 夏季研修会は、講師の先生の実践がとてもわかりやすく、来年度に向けて有意義なものだった。
- どちらの研究授業もよく考えられており、普段の授業に活かせるものだった。
- 歌唱、鑑賞と2領域での取組ができてよかった。

(課題)

- 夏季研修会の日程調整が難しい。(参加者が少なかった)
- 事前研への参加が難しかった。
- 下学年、上学年で1本ずつ授業が組めるとよい。
- 多くの先生が参加し、基本的な授業づくりが学べる場になるとよい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第1学年「どれみとなかよし 『ひのまる』」

指導者 益城町立広安西小学校 赤星 静香 教諭

(授業研究会より)

- 1年生という発達段階からも、5線ではなく2線を使われたのは視覚的に分かりやすくよかった。
- 日の丸シールの準備がよかった。児童が意欲的に取り組むことができていた。
- シールを貼ったことで視覚的に曲の盛り上がり分かり、楽しい活動だった。
- 板書と児童のワークシートが対応していて、児童にとって視覚的にも活動する際にも分かりやすいものであった。
- 1年生の子ども達が、自分の知っている学習した言葉を使って考えを伝えようとしているところがよかった。子どもの学びたい歌いたいという姿勢を感じた。

(2) 学習指導案

- 1 題材名 どれみと なかよし (教育出版社 1年)
教材名 「ひのまる」

2 題材について

- (1) 本題材は、歌や身体表現などを通して、音階の順番を知ったり、「ドレミ」が音の高さを表していることを理解したりすることをねらいとしている。音階や階名を知ること、身近な楽器の演奏に繋げることもでき、児童の音楽活動に広がりが出ると思う。

この題材では、楽譜の理解ではなく、模唱や暗唱を通して「ドレミ」と音高の関係に親しみ、身体表現をたくさん取り入れ、楽しんで階名や音階を学習しながら、音高感やフレーズ感を身につけていくようにしたい。

歌唱教材曲「ひのまる」は、文部省唱歌で共通教材の1曲である。4分の2拍子の曲で、日本の国旗をたたえる歌詞である。音域がドからラまでで、順次進行が中心であるため、階名唱しやすい曲である。さらに、器楽へと学習を展開することが可能な曲である。

(2) 児童の実態 (35名 特別支援学級在籍の児童2名)

項目	A	B	C
楽しんで歌唱することができる。	26名	8名	1名
歌うとき、歌に合った歌声で歌うことを意識している。	22名	12名	1名

○音楽が好きで、友だちと声を合わせて歌うことが好きな児童が多い。

○歌うときに、歌に合った歌声を考え歌うことができる児童もいるが、地声で歌おうとする児

童も3名程いる。

- 音楽に合わせて身体表現をする際に、なかなか表現できず動けない児童が4名程いるため、個別の声かけが必要である。
- 表現の工夫を考える際に、なかなか自分の考えを持っていない児童が5名程いるため、個別の声かけが必要である。

(3) 指導に当たっては次の事項に留意する。

- 本題材は、〔共通事項〕の中の旋律、フレーズを中心に取り扱う。歌唱曲「ひのまる」では、旋律、フレーズ、強弱を中心に取り扱って学習を進める。
- 歌唱曲「ひのまる」では、導入でさまざまな国旗を提示し、日の丸が日本を表す旗であるということをおさえる。
- 支援が必要な児童には個別に声かけをし、思いを言葉にする表現する支援をする。
- 〔共通事項〕を用いて、自分たちが感じたことを交流し合う時間を十分に確保する。
- 音楽に合わせて身体表現をする時間をとり、想像したことを表現し体全体で音楽の楽しさを味わえるようにする。

3 題材の目標

階名で歌ったり体を動かしたりして音高の変化に気づき、旋律の流れや盛り上がり、フレーズを感じ取って歌うことができる。

4 指導計画及び評価基準（6時間）

次	題材	時間	学習活動	評価				評価基準	〔共通事項〕
				関	創	技	鑑		
1	どれみのうた	1	○楽曲を楽しみながら聴き、曲の感じをつかむ。	◎				音の高さに合わせて体を動かしながら聴く学習に進んで取り組もうとしている。【ア 行動観察】	拍の流れ リズム 強弱 音楽の仕組み
		2	○ドレミ体操をしながら聞き、階名と音高の関連にきづく。	○		◎	音の高さに合わせて体を動かしながら、曲全体の気分を感じ取って聴いている。【エ 身体表現】		
	どれみのキャンデー	1	○範唱を聴き、主旋律を歌う。 ○楽曲に合わせてドレミ体操をし、友達の表現を見合う。		◎			最後の部分の音の高さと体の動きを対応させながら、表現を工夫することができる。【イ 行動観察】	リズム 旋律 拍の流れ
		2	○自分たちのドレミ体操を作り、発表する。 ○歌詞や旋律の感じが変わるところの発声に気をつけて歌う。			◎		旋律の流れや変化に合った表現で、歌ったり体を動かしたりすることができる。【ウ 演奏聴取】	
2	ひのまる	1	○範唱を聴き、歌詞唱や階名唱をする。 ○音程やフレーズに気をつけて、ドレミ体操をしながら歌う。	◎		○		正しい音程やフレーズに気をつけ、階名唱や体の動きで音高を表現する活動に進んで取り組んでいる。【ア 行動観察】	旋律 フレーズ 強弱
		2 本時	○盛り上がることを意識し、どのように表現するか考える。		◎			旋律のまとまりや曲の盛り上がりを意識して、強弱を工夫し、どのように歌うか考えることができる。【イ ワークシート】	

5 本時の展開（6 / 6 時間）

(1) 本時の目標

「ひのまる」の旋律やフレーズを感じ、一番盛り上がるところを考えることができる。

過程	学習活動	発問・指示(*)及び教師の支援(○) 評価(☆) 児童の反応(・)	備考
みとおす 10分	1 歌集「くまもと」の歌を歌う。	*大きく口を開けて、歌いましょう。 ビリーブ、君をのせて ○どのような声で歌うか歌唱前に意見を出させる。	歌集くまもと
	2 前時の復習とめあてを確認する。	*「ひのまる」は何のことでしたか。 ・日本の国旗のことです。	
「ひのまる」の盛り上がるところを見つけ、歌い方を考えよう			
ふかめ 25分	3 ひのまるを歌う。	*「ひのまる」を歌いましょう。一番大きく歌う場所はどこか考えながら歌いましょう。 ○視線が上がるよう、拡大印刷した歌詞カードを掲示する。 ○ドレミ体操をしながら、音高を体感させる。	拡大譜
	4 歌唱の工夫を考える。	*盛り上がると思う場所に、ひのまるを貼りましょう。 ○旋律やフレーズなどの音楽の要素をもとに考える視点を与える。 ○盛り上がるころは大きくなるということを、確認する。	ワークシート
	5 工夫したことを発表する。	*隣の友だちと意見を交流しましょう。 *自分の考えを、みんなで伝え合いましょう。 ・③にしました。わけは、一番音が高いからです。 ・②のところになりました。わけは、その前からだんだん高くなって、一番高いところだからです。 ・③にしました。わけは、「ああ、うつくしい」ときれいなことを言っているからです。	拡大譜 日の丸カード
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価】 旋律の中から、一番盛り上がるところを考えることができる。</p> </div>	
ねりあげる 10分	6 考えた歌い方で歌う。	*盛り上がりを意識して、歌いましょう。 ○全体交流で出た意見を中心に歌唱する。	拡大譜
	7 まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 音が高くなると、盛り上がっていく。</p> </div>	
	8 ふり返り	*今日の学習で分かったことやなるほどと思ったこと、がんばったことを書きましょう。	ワークシート

(2) 評価基準

B：旋律から一番盛り上がる場所を考え、歌い方の工夫を考えることができる。

A：旋律やフレーズから一番盛り上がる場所を考え、歌い方の工夫を音楽の要素や歌詞を根拠に考えることができる。